

おんちゃんのお酒

作:澤村知秀@気分屋気質 44歳 元不登校児 現農業法人代表 末いち表現者 & 試験就労先の社長

酒！呑まずにはいられないッ！あのクズのような父親と同じような事をしている自分に荒れているッ！クソッ！

〜ディオ・ブランドー〜

とうとうやって参りました、いつかは取り上げなければならない命題、お酒にまつわるエトセトラ。気が付けばお酒が飲めるようになってから、はや20年が過ぎ去っていきました。一体私はなぜ酒を飲むのでしょうか、二日酔いに苦しみ仕事どころじゃなくなった事なんて一度や二度じゃないのに。ケロツと忘れて、まあ1杯。誘われたら確実に参加してしまう飲み会、誘われてないのに参加してしまう飲み会、家にはだいたいビールがある。なぜなのか、深い深い深淵に立ち、覗き込んでいきたい、いや、覗き込まなければならぬ。「飲まなきゃいいのに、バカだねえ」という冷ややかな相方の目線を受け流しながら今回はお酒について語っていきましょう。

最近はめっきり無くなりましたが、私の小さい頃は【おきやく】がよくありました。親類が集まりヤイノヤイノ言いながらたらふくビールを呑む儀式です。私は小さいながらに飲めばゲラゲラ笑っている人たちを見ては思いました。

私(おんちゃんらあ、うるさいくサイ、こんなくサイ飲みもんがうまいはずがない、大人はなんでこんなもん飲むがやろう。)

今考えても、当時の私の感覚は正しいと思います。純粋な私の想いなど知るはずもない気の大きくなった酔っぱらい達は、その不味そうなのみもんを勧めてきよります。男の子やき練習せんといかんそうです、赤鬼どもは面倒臭い限りです。しょうがないのでくサイ飲み物を舐めてみると、あまりの苦さに、ウエーとベ口を出しました。赤鬼どもはそれを見て爆笑しています。やれやれ、二度とこんなもんは飲まん！と心に決めたものでした。まったく、今なら虐待扱いです。バヤリースオレンジか三ツ矢サイダーこそが最強の飲み物なのです、たまらない甘さが五臓六腑にしみわたる。これが分からんかなあ、愚かな大人どもよ。

ああ、つい過去に帰ってしまいました。いやはや、二度と飲まないと思っていたのに何度も飲んじゃう事になってしまいました。気が付かないうちに大人の階段上がってしまったようです。次に口にするのは高校生の時でした。早く大人になりたい悪ガキは、だいたいいらん事をするもんです。仲間集りに集まってしまえば、良からぬ事を企んで実行しちゃうのが、おバカなノリの男の子。よし、酒とやらを飲んでみようと思い立ちコンビ二にレッツラゴー。何も知らないおバカちゃん達はアルコール度数を見て強い弱いと、ドラゴンボールのノリで品定め。おおらかな時代でした、未成年でも売ってくれるんですもの。帰って開封、早速はじめるものの、やはりキツイ。こんなもん飲み物じゃないと心底思うんですが、大人はこれを飲むもんだと辛抱しながら飲

みます。ほどなくして、周りを見れば仲間がいつぞやの赤鬼になっております。キツイムリだとギャーつきはじめ、ジュースとお菓子で誤魔化しながら酒宴はお開きになり申した。やはり、まだ味わえるようにはなっていなかったようです。しかし酒をやってみたい、そんな高校生は先輩にもおりました。体育祭の練習中、全校生徒で整列してみれば前の列から酔っぱらい臭が漂ってきます。おいおい、誰かのんじゅうぞ。ゲラゲラと、聞こえてきます。二日酔いで参加してしまう輩がおったのでしょう。先生に連れて行かれることもなく練習を真面目に続けておりました。もはや日常なのでしょう。どんな学校や。

時代、そう時代としか言いようがない。酒税も低く、自販機でお酒が手に入る。どこでも誰でも購入できてしまう。私もお使いでビールを買ってきた事は10や20ではありません。500ミリやったら何でもかまん、それが父親の口癖でしたね。味ではなく量と飲み応えを重視するあたり危険な香りがします。今では考えられないですが、瓶ビールの自販機もあったとかなかったとか。酒飲み王国土佐、地盤はしっかり作られておりました。

せっかくなので先に触れておきましょう。さっくりネットを検索しましたところ、アルコール依存症の患者は都道府県別にみると高知県は第二位につけて居るそうです。確か人口割合の比較だったかと思えます。冒頭でのセリフはジョジョの奇妙な冒険第一部、悪役のディオが主人公ジョジョに追い詰められていく中でのセリフです。ディオの父親はいわゆる口クデナシで仕事を失い妻に逃げられ酒を飲んで息子を殴りつける。テンプレみたいなダメオヤジなのですが、息子ディオは冷静で狡猾、非常に賢い少年でした。成績優秀頭脳明晰、独善的ではあるものの生き抜くためにはどんな代償をもちとわなない、とても生き物らしさのある人物です。自分の家庭環境を客観視し必要であれば父親すら毒殺し、その死をも利用してしまう。ここまで冷酷な人間でも追い詰められていく中で酒に逃げなければいけなくなってしまう。マンガの話ですが賢さだけでは、人は一人で立脚する事が難しいと思えます。自分の弱さやダメさをどう扱うかは生きていく上で大切なテーマでしょう。ジョジョの奇妙な冒険の作者はそのディオの弱さを読者にうまく魅力的に見せることで作品の人気のみならずキャラクターとしての人気をも集める事に成功しています。だいたいがそれではいますが、依存的な自分を発見したら、それをどう扱うかはとても大事です。酒飲みのモラルとして頭において置かなければならないでしょう。ディオのようにうまく見せられると魅力的な人物になれるかもしれません。ええ、そうですね、少々硬いことを書きました。まあ、理由は残り全部ふざけ倒すつもりがあるからです。そろそろチャランポランに戻っていきましょう。

少年から青年になる時はいつかは訪れます。しかし結局、どんなに背伸びをしてもビールはおいしくないのです。実は正直、今でもおいしいとも思っていません。昔の職場のおんちゃんの言葉が思い出されます。「乾杯の後の一口目はえいがよ、残りが問題よ」「ビールは味わったらいかん、のどごしよ」暑い夏の仕事終わりの夜、こんな事を聞かされた記憶があります。子供の頃は味覚が非常に鋭敏で甘味が強く反応します。私の場合ですが、おそらくこの事実は消化器系が成熟しておらず、食べると危険な毒や腐敗物を避けるためであり、エネルギー源として甘い食料を求めるようになっているのではないかと考えます。つまり生き残るためというやつです。おんちゃんになるにつれて内臓が完熟し、舌がバカになり、ちつとばあくさつちよつたちかまんなり、

ちっくと苦いもんでも飲んじょける。この理屈で間違いないがやないろうか、いろんなもんが食えるようになるけんだ、ざっとしたもんでも食てしまう、ふてるもんでも、ひん飲んじょく。んん？なんか同じ事を言いゆうような気がするけんど、まあえいろう。だいたいおまんは人のゆうこと聞きやあせんき、何回も何回も同じ事ゆわないかん。わかっちゆうか？わしやあおまんの事を思うてゆうがぜよ。ひつつちゃあ怒っちゃあせんき、けんどうわなわからんろうがや？怒っちゃあせんちゆうたろうが！なんでわからんがな！うっ．．ううう．．家族のためと思うて、わしは、わしは、頑張って頑張ってきたに．．．う．．うう．どういて．こんな事に．ううう。「あらまあ、お父さんそろそろ飲むがはおいちよいて、寝ませんかね？」うるさい！おんしゃもわしの事バカにしちゆうろうが。だれっっちゃあわしの事は分かってくれんがじゃ、もう、ほうっちょいてくれや！

おっと、よくいる酔っぱらいが出てきましたね。どこのご家庭にもいそうです、一家に一台、酔っぱらい。三種の神器のこまったちゃん、かまってちゃん、酔っぱらいです。ほうっておいても困らせるのに、てがって欲しくてたまらない、よくいるおんちゃんですね。どうですか？あなたの周りにはいないでしょうか。そんな人が近くに居た場合は、酒をやりだしたら離れましょう、居酒屋に放り込んでおきましょう。酔っぱらいは酔っぱらい同士で過ごすのがよいのです。会話にならない会話がアルコール漬けの脳ミソに全く入るわけもなく、次の日には二日酔いで何の話をしたかなんてキレイサツパリ忘れていたのです。酔っぱらいの言うことで傷つくこともあるかもしれませんが本人たちは分かっていますからタチが悪い。離れましょう離れましょうそんな人とはね。

かく言う私もそんな所があります。困ったもんです。飲みすぎて強めの二日酔いは何度たりと経験してきました。1番ひどかった時の話をしてみましょう。二日酔い前日、その日の晩は同業者の集まりで夜は2軒目に突入、1軒目では余裕のある立ち上がりでまだまだ全然余裕だと思っておりました。キャバクラで軽〜く流すつもりでオネーチャンの隣に座りました。気分が良かった私は詰め席で出られなくなりそうなオネーチャンにおトイレ行くときは言ってねと声をかけておりました。そのオネーチャンはそんな言葉言われた事が無かったのかオニーサンは優しい優しいと水滴のついたグラスを何度も拭き取ってくれ、おひげがいやらしいです〜と甘い言葉かけてきます。調子に乗った私は注がれるがまま飲んでしまいました。気がつけば私は尿意をもようしトイレに行こうと席を立ったんですが足が上手く動かさない事に気づきました。経験上、こうなると手遅れです、確実に二日酔いです。いつもはお酒からウーロン茶などに変えてこれ以上酔わないようにするのですが、一度調子に乗ってしまうと延々と飲んでしまう悪いところがでてしまいました。3軒目まで行ってしまおうと味覚がバカになっております。いろんなお酒をあおりはじめ、なんでも美味しく感じるようになり、4軒目のラーメン屋では世界が揺れ回っておりました。歩けているのかどうか分からないけどタクシーで帰ったようです。帰宅即寝でしたが、朝になる前にラーメンの残りはトイレに消えていきました。胃液が無くなるまで戻し続け、なくなっても体は吐き出そうとしています。全身の血液にアルコールが残り、体温が高くなっているのを感じます。水が飲みたい、ノドが乾く、そう思い水を飲む、しかし、全部吐き出してしまおう。体が水を

受け付けてくれません。こっちは必死ですが家族は私がゲロゲロする度にゲラゲラ笑っております。何にも食べられない。そんな状況がまる一日続き、2日目の午後ようやく水を戻さないようになりました。脱水症状も出てただろうし内臓の負担も相当だった、アルコールの中毒症状だったかもわかりませんが次からは病院で点滴を打ってもらおうと思います。じゃなくて飲み過ぎないようにしようと思います。じゃなくて2度とお酒は飲まないと思いました。

ホントにこんなにひどい目にあっても、飲みに行きたくなるのはなんなんでしょう。諸先輩方々から飲み方のレクチャーを受け、ペースを守り、手遅れになる前に帰る、こんな対策は全く意味をなさなくなる。でも飲みに行くのよ、行っちゃうのよ。どんだけ愚か者やねん私は、うん。ああ、そうわかりました。私は、私が愚かであることを確認するために飲みに行く、これが答えではないでしょうか。私は父親として、夫として、そして責任者として、頑張って頑張って、そして頑張って日常を送ります。しかし、役割をこなしているように見えるけど、愚か者の私を出すことが出来ずにいるのです。この事実気づくきっかけになった友人がいます。彼はスーパーの店長をやっています。彼とは長年の付き合いですが、そんな彼の言葉が忘れられません。彼はこう言いました。「だいたい、運転中とか仕事中はウンコの歌とか作りゆうでね?」「ウンコ、ウンコ、ウンコッコー」。。。ああ、これを40歳も回ったおんちゃんが言うのです。もう壊れかけております。働きすぎは良くありません。ここまで一人でお馬鹿ができるのは紛れもなく愚か者でありましょう。誰しも愚かな所がある、愚かさは蔑むものか?楽しむものか?それとも愛するものなのか?。彼はこう問うておるのです。ええ、多分、いや間違いなく多分。酔っぱらいが彼を哲学しておきましょう。『我思う、故に我愚か』はい、やっぱり俺馬鹿だという事。違う違う、我々出来損ないが、どんなに考えようが結果的には愚かな結果になっていく。だから最初から愚かさを認め受け入れ、そして考えない。これが大切な事ではないか、彼はこう言いたいのではないか。私はそう考えたのです。ええ、多分、いや間違いなく多分。

脱線していましたが、飲みに行く、酒を飲むということは、肩肘張らず、上下無く、不毛で無意味な語らいをする中で、自分自身の愚かさを再確認する行為である。二日酔いも含め、すべてが無駄に思える飲酒の儀式であっても、ただ一つ、愚か者が愚かさをを自覚する自身の内面の修行の場であることは否定できない。私は言いたい、愚か者たちよ、その愚かさを知るものたちよ、いずれは忘れてしまう愚かさを、すでに忘れた愚かさを、今一度確かめようではないか!無駄に調子に乗った愚か者よ、立場があるゆえウンコの歌が歌えない愚か者よ、飲酒!飲酒こそが高い鼻を折ってくれるのだ!酒宴こそ平等な世界、飲み会こそ正義、さあみんなで飲みに行こうではないか!カンパーイ!カンパーイ!